



地方紙にはたいい誕生欄というのがあって（北日本新聞にも勿論あります）、毎日新しい生命の誕生が報じられており、私達は日頃、子供はいとも簡単に生まれてくる様な感覚を持っているのではないのでしょうか？しかし、なかなか子供が生まれない為に、あるいは妊娠してもすぐ流産してしまう為に、どうしたら子供ができるかと、それこそ血の滲むような努力をしている夫婦は、この日本にどれほど存在しているか分らないくらいです。

一方、「次の子供は何年後に作るつもりだ」とか、「子供は3人くらい作りたい」などという言葉もまた良く聞きます（実は私自身もその様に思っています）。

しかしそれにしても子供というのは作るものなのでしょうか？またそんなに簡単に作れるものなのでしょうか？こう問われると、「作る」と言ったって、それは表現の仕方、まさかノコギリとノミでピノキオを作

るのではあるまいし、物を作るようなつもりで言っているのではない」と誰もが言うでしょう。

しかし言葉という言葉がある通り、言葉というものは不思議な力を持っていて、自分が言った言葉から暗示を受けることがあります。だから「作る、作る」といつも言っていると、いつの間にか本当に「作るもの」だと思いついでいきます。するとそのうちに、人間は自分の力を過信して、人間はどんなことでも出来るのだという、一種の思い上がった気持ちになりがちです。実際その行き着いたところがクローン人間などに代表されるものです。

さらに「作る」という感覚でいるところへ子供が生まれてくると、その後子供を躾、教育する段になって大きな不満が発生することになります。と言うのも、自分達が作ったものなので、出来の良い作品もあれば、いろいろであります。もしそれが親が期待していた通りではない子供だと思ったら、その時から親はどうしようもない悩みを抱え込んでしまうこととなります。（これを読んでおられる皆さんの中には、この様に子供を区別して愛情を注がれるという人はおられないと思いますが、

世の中にはこういう親御さんも少なくないのですよ）。もしこの様に悩みを抱え込んでしまったら、そこにはすでに感謝の気持ちが出てくる事は、まず無いと言つて過言ではないでしょう。

私達が子供を「作る」と言つてはいけないのであります。いけないというより、「作る」わけではないのです。子供は授かるものなのであります。授かるものだからこそ、授かったことに、初めて心から感謝できるのであります。この感謝の気持ちが有るか無いか、それがその後の教育の育児の方向、質、量の総てを決定していきます。

それでは子供は一体全体、どこから、また誰から授かるのでありましようか？それは見たこともない何百年も昔の祖先からです。

因みに、1人の人間が生まれ出てくる為には父親・母親と2人の親様が存在します。その両親にも、また2人ずつの両親が存在します。その様に考え、2人・4人・8人と遡っていき、10代まで遡って計算すると、なんと1024人という数の親様が存在することになるのですよ。私達の祖先は当然10代前どころではなく、何十代あるいは何百代前から存在しますので、それ

を考えると、もの凄く確率で縁を受けて生まれ出てくるのが出来たのであります。しかも祖先の中の誰か一人でも欠けていたら私達は存在しません。そう考えると、感謝の気持ちが湧かないはずがありません。生物学的に言うと、私達のDNAには「自分のDNAを親から子へ繋いで、永く地球上に残すように」という、生命のバトンタッチのプログラムが刻印されているというのですよ。このプログラムは圧力を持っていて、誰かを好きになるのも、生殖行動の衝動に駆られるのも、みんなこの圧力によるのであります。その結果私達の所に子供がやってきます。授かります。この祖先のことを私達は仏様とも呼びます。その当たり前親に感謝する、そして祖先に、さらには仏様への感謝の気持ちを今一度、実感して頂きまして、生かされていくことを実感していただければ幸いです。御座います。

副住職 谷川寛敬

合掌